

第39期 (2019年6月期)

第1四半期連結業績説明資料

2018年 11月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10
TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024
<http://www.donki-hd.co.jp/>
e-mail : ir@donki.co.jp

天災地変を乗り越えたドンキホーテHD

18年7～9月期

ドンキホーテHDは、2018年7～9月期の連結決算を発表した。売上高は2,501億円(前期比11.9%増)、本業の儲けを示す営業利益は145億円(同1.4%増)、純利益は116億円(同37.6%増)と、第1四半期として、いずれも過去最高を更新した。

今夏商戦最大の難敵は異常を極めた天災地変だった。豪雨、酷暑、巨大台風、地震などが相次ぎ、一部店舗では被害も発生した。その都度、顧客対応や店舗運営に影響が及び、お客さま来店数も伸び悩んだが、ピンチな場面ほど、同社の「現場対応力」が冴え渡る。まずは、お客さまの信頼が高い食品や日用消耗品の品揃えと価格提案を強化し、堅実な販売につなげた。季節商品は最適な販売体制の維持に努めた。また、来店回数に限られたお客さまに対するまとめ買い対応は、同社に対する信頼の証であり、大好評だった。

ユニーと取り組み、両社のシナジーが発揮されたダブルネーム店の業績伸長は著しい。ユニー・ファミマとの取り組みも第2ステージに突入する。今後ますます緊密な連携を強化することにより、個店ごとの競争力を高め、国内最強のリテール集団に進化し、企業価値を高めていく。流通の新しいカタチがそこにある！



2019年6月期1Q 決算概況

- ✓ 決算業績概況
- ✓ 事業別業績概況
- ✓ 主な資産、負債、純資産の状況
- ✓ セグメント情報
- ✓ キャッシュフロー、設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓ 出店状況&ハイライト情報
- ✓ 月次販売の状況
- ✓ 1Q決算レビュー
- ✓ 流通新時代の幕明け
- ✓ インバウンドの状況

2019期6月期2Q / 通期業績予想

- 本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- 本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「ドンキホーテHD」または「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、シンガポールは「SG」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」及び持分適用関連会社のユニーは「ユニー」、その子会社のUDリテールは「UDリテール」並びにユニー・ファミリーマートは「ユニー・ファミマ」と表示している箇所があります。
- 前期より「企業結合に関する会計基準」を適用しておりますが、本資料に記載している勘定科目等は、意を損ねることがない程度に簡略した表記をしている箇所があります。

1Q決算業績サマリー

ドンキホーテ HLDGS

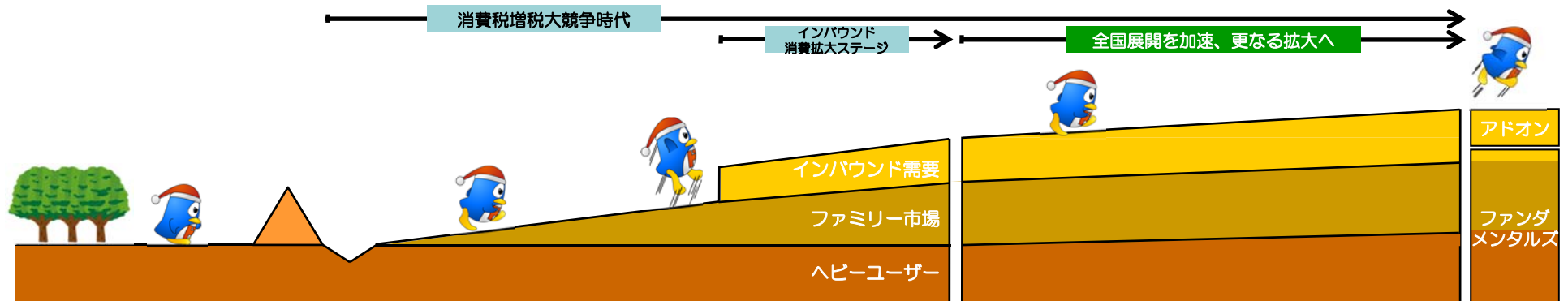
【期間：2018年7月1日～2018年9月30日】

(単位：百万円)

連結実績	前1Q実績		当1Q実績					2Q累計 公表予想 ^{※1}	
	金額	百分比	金額	百分比	増減額	前期比	進捗率 ^{※2}	金額	百分比
売上高	223,433	100.0%	250,080	100.0%	26,647	111.9%	49.7%	503,000	100.0%
売上総利益	59,268	26.5%	66,732	26.7%	7,464	112.6%	50.6%	131,800	26.2%
販管費	44,968	20.1%	52,229	20.9%	7,261	116.1%	51.1%	102,300	20.3%
営業利益	14,300	6.4%	14,503	5.8%	203	101.4%	49.2%	29,500	5.9%
経常利益	14,301	6.4%	17,917	7.2%	3,616	125.3%	55.3%	32,400	6.4%
当期純利益	8,465	3.8%	11,646	4.7%	3,181	137.6%	59.7%	19,500	3.9%
1株利益	53.52円		73.62円		20.10円	137.6%	59.7%	123.27円	

※1. 公表予想は2018年8月10日に公表したものであります。

※2. 進捗率は第2四半期累計期間に係る公表予想に対する進行割合を表しております。



1. 1Q業績概況

消費環境は引き続き節約志向が主流を占め、平成最大級の天災地変が続いた夏商戦。目の前で発生した事象を先送りすることなく機敏に対処し、個店力・現場力でマイナス影響を最小限に抑える。商売の神さまが与えた「厳しい修行」も顧客本位で戦い抜いた結果、増収増益で1Q最高益更新！

- ▶ 集中豪雨→危険な猛暑→巨大迷走台風の襲来→地震→長雨と、平成最後の夏季商戦で最大級の天災地変が、リレーのように続いたことによるマイナス影響は、機動性と柔軟性を発揮したお客さま対応力を駆使して、業績への悪影響を最小限に抑制。
- ▶ 店舗ネットワークは居抜き物件を中心に面展開を進めて巡航速度で拡大中。経営資源を適正配分しながら小型店や実験店の開発にも注力し、すき間商圈からもシェア獲得を進める。一方で、ユニー・ファミマとの共同店舗は、課題解決をこなしながら順調に進捗。
- ▶ インバウンド消費は引き続き好調に推移し業績拡大に寄与！バラエティに富んだ商品をいつでもワンストップで購入出来て、その上お値段はディスカウント価格。買い物上手のリピーター客の増加に拍車がかかり、ますますDQ人気が沸騰。
- ▶ オリジナル商品は新アイテムの投入と併せてラインナップが充実し、SNSでも話題を呼ぶ人気商品も生まれる。お客さまのウォンツにお応えする商品開発への投資は惜しむことなく進め、「ワクワク・ドキドキをカタチに」を一步ずつ実現。
- ▶ 好調な販売状況と事業規模拡大に備えた人員増強に伴う人件費、災害被害に要した一過性の負荷費用などに加えて、コストインフレがじわりと侵食。シェア拡大の攻め手は緩めずに、トップラインのさらなる引き上げと同時にコストコントロールを適正に進める。
- ▶ これらのことから、1Q連結業績は、売上高2,501億円（前期比11.9%増）、営業利益145億円（同1.4%増）、経常利益179億円（同25.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益116億円（同37.6%増）といずれも予想を上回り、2Q予想は上方修正へ。

2. 業績見通し

「売上高1兆円超と30期連続増収増益」達成に向けて2Q業績予想を上方修正！通期予想は精査中！

- ▶ 2Q累計期間の連結業績は、売上高（5,120億円：前期比10.6%増、当初予想5,030億円）、営業利益（300億円：同2.6%増、同295億円）、経常利益（350億円：同12.7%増、同324億円）及び親会社株主に帰属する四半期純利益215億円（同15.1%増、同195億円）にそれぞれ上方修正。
- ▶ 通期業績予想については、現時点で合理的な算定が困難であることから、2Q累計期間決算発表と併せて公表予定。

1Q連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2018年7月1日～2018年9月30日】

(単位：百万円)

	前1Q		当1Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	223,433	100.0%	250,080	100.0%	111.9%
売上総利益	59,268	26.5%	66,732	26.7%	112.6%
販管費	44,968	20.1%	52,229	20.9%	116.1%
給与手当	16,718	7.5%	19,425	7.8%	116.2%
地代家賃	6,602	3.0%	7,453	3.0%	112.9%
支払手数料	5,593	2.5%	6,033	2.4%	107.9%
減価償却費	3,343	1.5%	3,669	1.5%	109.8%
その他	12,712	5.7%	15,648	6.3%	123.1%
営業利益	14,300	6.4%	14,503	5.8%	101.4%
経常利益	14,301	6.4%	17,917	7.2%	125.3%
当期純利益	8,465	3.8%	11,646	4.7%	137.6%
1株当たり純利益	53.52円		73.62円		137.6%

1Q連結業績概況コメント

▶ 連結売上高：2,501億円（前期比11.9%増）

天候不順や地震発生に伴う被害とその後の混乱により、一部の店舗は休業や時短営業を余儀なくされたが、顧客最優先主義を貫いて乗り切り、QSI24店（ハワイ州）のフル連結も寄与。

DQ既存店は前期ハードル5.6%増に対して1.6%増（真水0.1pt増、免税1.5pt増）、

MEGA店運営の長崎屋は1.2%増（前期ハードル3.7%増）と踏ん張り、お客さまの支持に感謝！

インバウンド消費に係るDQ既存店は21.8%増（全店33.1%増）と新免税制度開始以来48ヵ月連続前年超えを継続中！

↑（日本政府観光局が、毎月公表する訪日外客数の動向に振り回されている方が一部にいらっしゃいますが、DQの人気と実力はホンモノです。心配ご無用！！）

▶ 当1Q末総店舗数：424店（前期末418店）

新規出店7店（DQ3、New MEGA1、ピカソ他小型店3）、閉鎖1店（ドイツ1）。

▶ 連結売上総利益：667億円（前期比12.6%増）、総利益率：26.7%（同0.2pt改善）

「節約志向」が強い生活必需品については、品揃えを強化すると同時にきめ細やかなプライスコントロールを進め、「嗜好品」などは販売促進策を強化して粗利バランスを取る。

季節商品は、天候不順に伴う悪影響が商機を歪める局面もあったが、常に機先を制して総利益率は0.2pt改善。

▶ 連結販管費：522億円（同16.1%増）、販管费率：20.9%（同0.8pt低下）

「攻めの経営」を推進し、「コストコントロール」を押し進めるが、今後の事業規模拡大策に対応するため、人員体制を強化したこと以外に災害復旧対応のための人員増強などで人件費（福利厚生費含む）が増加。さらに地代家賃、光熱費、修繕費及びのれん償却費などが増加。

▶ 営業外収支尻：34億円のプラス

受取利息・配当金5億円、持分法投資収益25億円/支払利息8億円など。

▶ 特別損益収支尻：3億円のマイナス

/災害損失2億円など。

▶ これらのことから、営業利益145億円（同1.4%増）、経常利益179億円（同25.3%増）及び親会社株主に帰属する四半期純利益は116億円（同37.6%増）といずれも予想を上回り、1Q最高益を更新する増収増益決算！！

1Q事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2018年7月1日～2018年9月30日】

(単位：百万円)

	前1Q		当1Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業 ^{※1}	216,498	96.9%	242,703	97.1%	112.1%
家電製品	18,418	8.2%	19,405	7.8%	105.4%
日用雑貨品	53,356	23.9%	57,232	22.9%	107.3%
食品	73,231	32.8%	81,143	32.4%	110.8%
時計・ファッション用品	40,051	17.9%	41,491	16.6%	103.6%
スポーツ・レジャー用品	15,803	7.1%	15,821	6.3%	100.1%
D I Y 用品	3,992	1.8%	3,720	1.5%	93.2%
海外 ^{※2}	8,817	3.9%	20,957	8.4%	237.7%
その他商品	2,830	1.3%	2,934	1.2%	103.7%
テナント賃貸事業 ^{※1}	5,232	2.3%	5,480	2.2%	104.7%
その他事業	1,703	0.8%	1,897	0.8%	111.4%
合計	223,433	100.0%	250,080	100.0%	111.9%

※1. 報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 当1Q 1USD=109.5円、前1Q 1USD=111.4円

1Q事業別業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶リテール事業2,427億円（前期比12.1%増）

度重なる自然災害や天候不順に見舞われた7~9月。

国内消費は生活必需品の普段使いに加えて、天候不順を乗り切るためのまとめ買いが発生。

インバウンド消費は近畿の一時的な減速を、他地域がカバーして力強く成長。

*「家電製品」194億円（同5.4%増）

ワイヤレスヘッドホンの人気沸騰。気温の上昇に伴って、扇風機などの季節家電が好調。

懐中電灯や乾電池などの電気小物が伸長した他、話題の新機種発売がスマートフォンアクセサリーの需要を喚起。

*「日用雑貨品」572億円（同7.3%増）

日焼け止めなどの季節商品、歯ブラシやシャンプーなどの日用消耗品が貢献。

盛り上がるインバウンド消費により、化粧品や医薬品は高い伸びを記録。

*「食品」811億円（同10.8%増）

調味料や菓子類などの「加工食品」及びヨーグルトや納豆などの「日配品」が稼ぎ頭。

ドリンク類やアイスクリームなどの氷菓は猛暑需要が押し上げ。

MEGA店は精肉をはじめとする生鮮食品の支持率が高く、アウトパック惣菜が高成長。

*「時計・ファッション用品」415億円（同3.6%増）

加熱式タバコを始めとするタバコ及び周辺パーツが牽引役。

スポーツ衣料などのカジュアルウェア、レインコートなどの雨具が伸長。

*「スポーツ・レジャー用品」158億円（同0.1%増）

天候不順により、アウトドア用品・スポーツ用品が苦戦。

車内の暑さしのぎのサンシェードなどのカー用品及び水遊び用のマリリングッズが寄与。

*「DIY用品」37億円（同6.8%減）

天候不順や自然災害によりエクステリア用品やプロ向け商品が減速。ワークウェアや日用消耗品が健闘。

*「海外（アメリカ）」210億円（同137.7%増）

QSI増収効果は123億円。日本品質と価格のバランスの良さが支持されて順調に推移。

寿司などの「モバイルフーズ」の人気拡大。生鮮食品も好調。（ご参考：当1Q 1USD=109.5円、前1Q 1USD=111.4円）

▶テナント賃貸事業55億円（同4.7%増）

積極的な新規出店により、商業施設事業及びJAM事業は着実に成長。

主な資産の状況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	18年6月 ^{※1}	18年9月	増減額
流動資産	236,613	288,808	52,195
現預金	71,973	119,407	47,434
商品	135,781	137,142	1,361
固定資産	570,165	582,904	12,739
建物等	133,415	146,725	13,310
土地	188,866	193,518	4,652
長期貸付金	95,815	89,693	▲6,122
敷金保証金	46,494	46,272	▲222
資産合計	806,778	871,712	64,934

主な資産の状況

▶ **総資産：8,717億円**（前期末比649億円増）
 主な増加要因は、現預金474億円増、商品14億円増、有形固定資産156億円増及び投資その他の資産36億円減など

▶ **現預金：1,194億円**（同474億円増）
 今後の事業展開及び成長戦略に向けて金融機関から長期資金を調達

▶ **商品：1,371億円**（同14億円増）
 低回転商品の在庫投資を抑制中
 （参考：前期比/売上高11.9%増、商品5.5%増）

▶ **固定資産：5,829億円**（同127億円増）
 店舗拡大策に伴い、当期中の新規出店に係る有形固定資産（建物133億円増、土地47億円増など）が増加

※1.「税効果会計に係る会計基準の一部改正」等を当1Qの期首から適用しており、2018年6月期は、遡及適用後の数値となっております。

主な負債・純資産の状況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	18年6月 ^{※1}	18年9月	増減額
流動負債	171,886	182,695	10,809
買掛金	93,030	97,752	4,722
短期負債 ^{※2}	21,404	29,477	8,073
固定負債	322,397	375,905	53,508
社債	91,274	90,166	▲1,108
長期借入金	200,668	255,777	55,109
債権流動化に伴う 長期支払債務	12,104	10,272	▲1,832
負債合計	494,283	558,600	64,317
純資産合計	312,495	313,112	617
負債・純資産合計	806,778	871,712	64,934

主な負債・純資産の状況

- ▶ 負債合計：5,586億円（同643億円増）
主な増減要因は、買掛金47億円増、有利子負債621億円増（短期性負債81億円増、長期性負債540億円増）の一方で、未払法人税等30億円減及び債権流動化に伴う支払債務18億円減など
- ▶ 有利子負債：3,754億円
（同621億円増、依存率43.1%）
- ▶ 純負債：2,560億円（同146億円増）
- ▶ 債権流動化に伴う支払債務：176億円
（同18億円減）
ABL（Asset backed loan）による調達残高
- ▶ ネットD/Eレシオ：0.87倍（格付基準：0.70倍）
- ▶ インタレスト・カバレッジ・レシオ：18.2倍
- ▶ ROE：16.7%（年換算）
- ▶ 純資産：3,131億円（前期末比6億円増）
- ▶ 自己資本：2,936億円
（自己資本比率33.7%、同格付基準：39.4%）

※1. 「税効果会計に係る会計基準の一部改正」等を当1Qの期首から適用しており、2018年6月期は、遡及適用後の数値となっております。

※2. 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

1Qセグメント情報

ドンキホーテ HLDGS

「リテール事業」におけるセグメント利益は82億円！
「テナント賃貸事業」は44億円、「その他の事業」は19億円！！

前1Qセグメント概要【期間：2017年7月1日～2017年9月30日】^{※1}

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業 ^{※2}	計	調整	連結
外部売上高	216,498	5,232	1,703	223,433	—	223,433
内部取引等	245	5,295	2,256	7,796	▲7,796	—
計	216,743	10,527	3,959	231,229	▲7,796	223,433
セグメント利益	8,847	4,321	1,067	14,235	65	14,300

当1Qセグメント概要【期間：2018年7月1日～2018年9月30日】^{※1}

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業 ^{※2}	計	調整	連結
外部売上高	242,703	5,480	1,897	250,080	—	250,080
内部取引等	149	5,772	2,298	8,219	▲8,219	—
計	242,852	11,252	4,195	258,299	▲8,219	250,080
セグメント利益	8,151	4,374	1,862	14,387	116	14,503

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 「その他事業」は「不動産事業」「マーケティング事業」などであります。

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	前1Q	当1Q	増減額
1.キャッシュフローの状況			
期首残高	78,094	75,883	▲2,211
営業活動CF	12,385	14,603	2,218
投資活動CF	▲28,267	▲14,623	13,644
財務活動CF	94,726	49,591	▲45,135
期中増減等	79,268	49,999	▲29,269
期末残高	157,362	125,882	▲31,480
営業活動CF+投資活動CF	▲15,882	▲20	15,862

キャッシュフロー	
<営業CF>	
▶税金等調整前純利益176億円、減価償却費44億円及び仕入債務の増加45億円などが増加要因となる一方で、棚卸資産の増加11億円及び法人税等支払額83億円が減少要因となり、146億円がキャッシュイン	
<投資CF>	
▶出店に伴う有形固定資産の取得135億円及び敷金保証金の差入れ12億円などで146億円がキャッシュアウト	
<財務CF>	
▶長期借入金純増額620億円の一方で、社債償還11億円、債権流動化の返済19億円、配当金支払43億円及び連結範囲の変更を伴わない子会社株式の取得43億円などで、496億円がキャッシュイン	

2.設備投資の状況

設備投資額	11,837	15,530	3,693
キャッシュフロー ^{※1}	8,555	11,323	2,768
差引	▲3,283	▲4,207	▲924

設備投資	
▶設備投資は155億円（DQ103億円、長崎屋9億円、JAM41億円など。敷金保証金回収などを考慮した純増加額は150億円）、キャッシュフロー（※1）は113億円獲得したが、フリーキャッシュフローは▲42億円。	

※1. キャッシュフロー = 純利益+減価償却費+特別損失-配当金

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2017年 6月期	2018年 6月期	2019年 6月期1Q
ドン・キホーテ	*1 198	209	212
M E G A	*2 40	43	43
N e w M E G A	72	80	81
ピカソ	*3 21	23	26
驚安の殿堂	4	4	4
ドイト	17	18	17
長崎屋	2	2	2
海外	14	39	39

法人別店舗数

ドン・キホーテ	292	313	320
長崎屋	40	43	43
ドイト	17	18	17
ライラック	4	4	4
ダイシン百貨店	1	1	1
国内合計	354	379	385
D Q U S A	3	*4 4	4
M A R U K A I	11	*4 9	9
Q S I	-	24	24
P P I H D	-	2	2
海外合計	14	39	39
合計	368	418	424

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。
- ※2. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※3. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」「エキドンキ」「ソラドンキ」及び「情熱職人」が含まれております。
- ※4. MARUKAI/ハワイ2店をDQUSAの子会社に改組しております。
(うち1点は地域再開発のため閉鎖しております)
- ※5. 当1Qは、事業効率改善のため1店閉鎖しております。
- ※6. 上記の他に、1店が店舗建替えのため休業しております。
- ※7. *は、ソリューション出店であります。

求む！
店舗物件



8月

ドン・キホーテ
石垣島店



9月

情熱職人
東松山店



8月

ピカソ
目黒駅前店



8月

MEGAドン・キホーテ
船橋習志野店



8月

ドン・キホーテ
寝屋川香里園店



7月

ドン・キホーテ
大垣インター店



8月

ピカソ
川崎銀柳街店

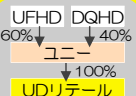


当期ハイライト情報

個店力・現場力を発揮しながら、居抜き出店を中心に店舗ネットワークを拡大！
 当期の新規出店は20店+αを予定し、ダブルネーム転換店 第2期（暦年20店）始動へ。

法人	業態	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
DQ	DQ	大垣インター (岐阜)	寝屋川香里園 (大阪) 石垣島 (沖縄)		西鉄久留米 (福岡)	越前武生イッパ (福井)							
	MEGA		船橋習志野 (千葉)										
	小型店 (ピカソ等)		目黒駅前 (東京) 川崎銀柳街 (神奈川)	東松山 (埼玉)									
長崎屋													
ライラック													
ドイト													
海外					ヨーバリンダ (カリフォルニア)								
UDリテール MEGAドン・キホーテUNY ダブルネーム店運営													

資本関係

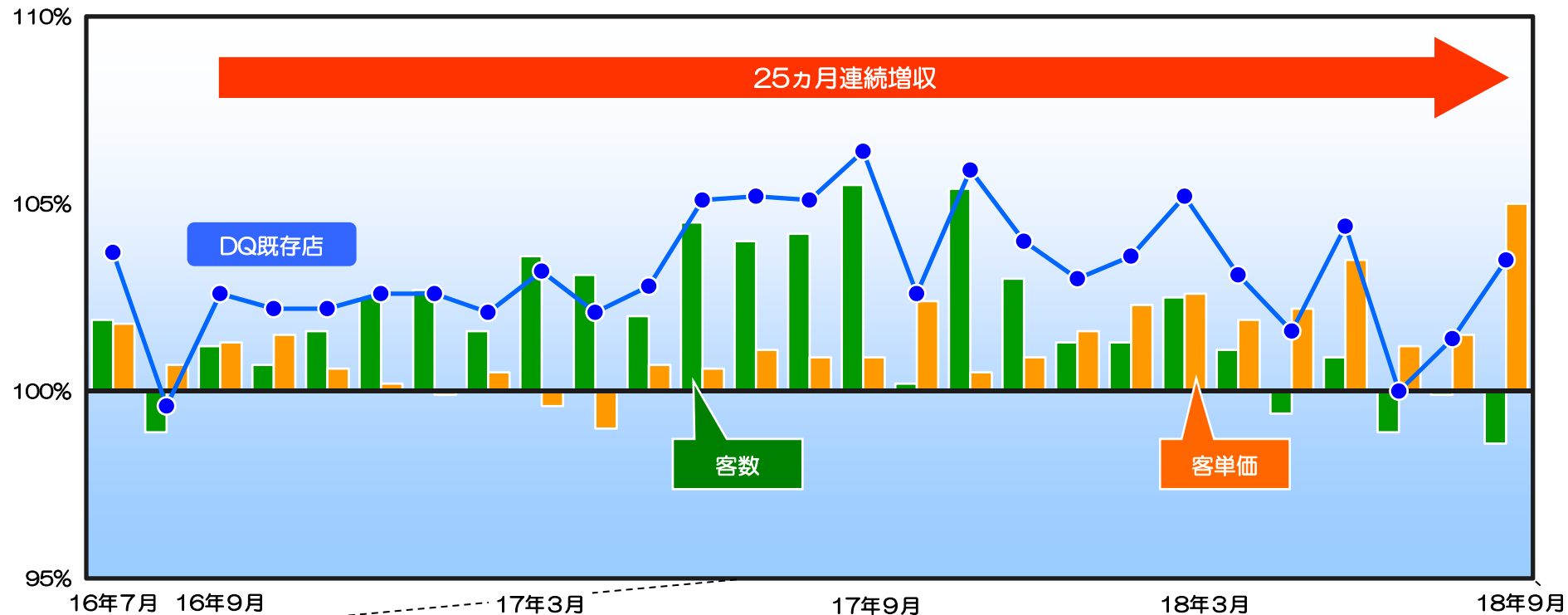


- 「熱中症予防キャンペーン」実施
- 離島2号店「石垣島店」出店
- 公式キャラクター「ドンペン」生誕20周年
- 「渋谷区道玄坂二丁目開発計画」発表
- 期間限定店「ミチドンキ」「モールドンキ」出店
- ユニー株式60%取得及びUFHDによる当社株式TOBIに対する意見表明公表
- 米国で初の新規出店

 = DQ
 = MEGA
 = ドイト
 = ピカソ
 = 驚安堂
 = 海外
 = MEGAドン・キホーテUNY (アビタ・ピアゴからの業態転換店)

* = ソリューション出店
 ✓ = (スクラップ) & ビルド店

DQ 月次販売高の状況



既存店	17年7月	8月	9月	10月	11月	12月	18年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	105.2%	105.1%	106.4%	102.6%	105.9%	104.0%	103.0%	103.6%	105.2%	103.1%	101.6%	104.4%	100.0%	101.4%	103.5%
・客数	104.0%	104.2%	105.5%	100.2%	105.4%	103.0%	101.3%	101.3%	102.5%	101.1%	99.4%	100.9%	98.9%	99.9%	98.6%
・客単価	101.1%	100.9%	100.9%	102.4%	100.5%	100.9%	101.6%	102.3%	102.6%	101.9%	102.2%	103.5%	101.2%	101.5%	105.0%
対象店舗数	265店	269店	271店	274店	275店	277店	278店	278店	278店	280店	283店	283店	288店	291店	283店
土日休日数差	±0日	±0日	±0日	-1日	±0日	±0日	-1日	+1日	+1日	±0日	-1日	+1日	-1日	-1日	+2日

相次ぐ天災地変と高い前年ハードルを乗り越えて堅実な成長。
 DQ既存店は1.6%増（客数0.9%減、客単価2.5%増：真水0.1pt増、免税1.5pt増）。

1Q決算レビュー

「自然災害」「天候不順」「前年の高いハードル」一。
 枚挙に暇がないほどの厳しい要因に直面しながら、健闘した1Q商戦。
 「生活必需品ニーズが強い国内消費」と「消耗品人気強いインバウンド消費」の二刀流がキラリと光った！

＜豪雨と猛暑に泣かされた 7月＞

既存店売上高：0.04%増 客数：1.1%減 客単価：1.2%増
 土日休日数増減：-1日

- ☹️ ●天候不順により客数が減速
- 😊 ●夏物季節商品が好調に推移
- 😊 ●インバウンド消費が絶好調

＜相次いだ台風と気温差大 8月＞

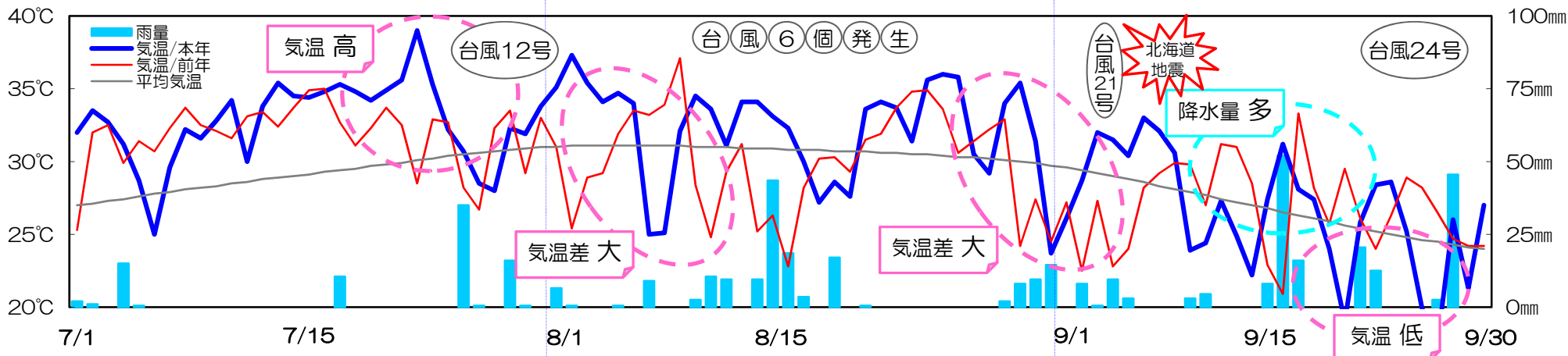
既存店売上高：1.4%増 客数：0.1%減 客単価：1.5%増
 土日休日数増減：-1日

- 😊 ●食品ニーズは強く安定飛行
- 😊 ●台風通過後は暑さが一段落
- 😊 ●夏休みレジャー用品が貢献

＜猛チャージかけた端境期 9月＞

既存店売上高：3.5%増 客数：1.4%減 客単価：5.0%増
 土日休日数増減：+2日

- ☹️ ●豪雨や地震など災害が頻発
- 😊 ●タバコの駆け込み需要発生
- 😊 ●免税売上高の強い勢い続く



＜主な出来事＞

今年	✓「平成30年7月豪雨」が発生	＜出店数＞ 1	✓名古屋で観測史上初の40℃超を記録（8月3日）	＜出店数＞ 5	✓台風21号により関空の滑走路が閉鎖（9月3日）	＜出店数＞ 1
	✓7月として統計以来最高気温を記録		✓アジア競技大会が開幕（8月18日）		✓北海道胆振東部地震が発生（9月6日）	
昨年	✓九州北部豪雨発生（7月5日）	＜出店数＞ 5	✓第3次 安倍内閣発足（8月3日）	＜出店数＞ 2	✓米トイザラスが破綻（9月18日）	＜出店数＞ 3
	✓1～6月の訪日客消費 初の2兆円越え		✓GDP速報値 6四半期連続プラス成長		✓大型の台風18号が日本列島を縦断	

事実は現場で起きているんだ!

15:30

> 店舗リーダートーク 7月 (50) ▾

豪雨だ。。時々停電になるし。近くの川が決壊しそうでコワイ。

MD

懐中電灯、スマホ充電器、カセットコンロ防災用品を至急調達します。

道路が寸断したらしい。店内に泥水が流れ込んできた。みんな、安全確保!

物流

臨時輸送トラック確保。最速ルートでトラックに伝達済み。今向かった。他に必要?

停電した、緊急対応中。物流、MD、危機管理、応援頼む。

この間は大変だったけど、「ドンキは商品があって助かった」と感謝のお言葉が嬉しかった!

免税 7月×日 (火)

熱中症予防の店内放送を多言語で流して、お客さまへ注意喚起をお願いします。

OKです。豪雨去ったと思ったら、今度は猛暑ですわ。。

サポ

スタッフのみんなも水分補給しながら、熱中症予防声かけましょう!

7月は天候不順で客数は△だったけど、暑さで夏物は好調でした! おーし、8月から挽回するぞ! 天気、頼むよ。

15:30

> 店舗リーダートーク 8月 (50) ▾

台風ヤバ。電車止まって、出勤できないスタッフおるし、営業できるかいな。。

サポ

夏休みシーズンにこの天候はキツイっす。。

無理せず、営業時間短縮も検討しようか。外買い場の安全確認を!

これはヒドいな。はよ閉店せな危ない!

8月×日 (水)

東海

名古屋は気温が40℃を超えとります(*_*)

東海

梅干し、むっちゃ売れるwアイスの補充が追いつかん。

こちらはエアコン取り付け工事をスピードアップ中!

MD 8月×日 (土)

台風へ備えて、ブルーシートや雨具を揃えるね。来月はスマホの新機種発売とタバコの値上げ前の掛け込み需要があると思うので、今から在庫確保しておきます。早めの商品入れ替えだ!

殺虫剤が売れん。。暑すぎっからな。

水着コーナーに日焼け止めや防水スマホケースを置く「イベント陳列」で売上アップ!

MD

暑さ対策ひんやり用品、ドリンク、アイス、をスポットで在庫確保! 在庫少ない店舗から補充していきますね。梅干しや塩系のお菓子も多めに発注するとよいかも!

15:30

> 店舗リーダートーク 9月 (50) ▾

台風21号で近畿の店舗は営業時間の短縮やむなし。お客さまの安全チェック。

設備

外の看板や什器で風に飛ばされそうなものないかだけチェックをお願いします。スタッフも、早めの帰宅判断を!

関空閉鎖! うそやろ!?

北海道 9月6日 (木)

大きな地震が午前3時に発生。電気こない、真っ暗。懐中電灯で商品を駐車場に搬出中。冷食は速攻無料配布。水、充電器、食品、防災用品至急こっちに回して!

物流

スマホ充電器、カセットコンロ完売。物流混乱、物がなくなる。自社便で至急仕入れます。

商品輸送用のフェリーを確保! 陸路では時間がかかるので、港から商品を運ぶ。今、出発した。

9月×日 (日)

先日の緊急対応、お疲れさまです。ツイッターで「地震発生から2時間で手売り開始するとかドンキ、ハンパねえ」という賛辞のコメントあったね(^^)

九州

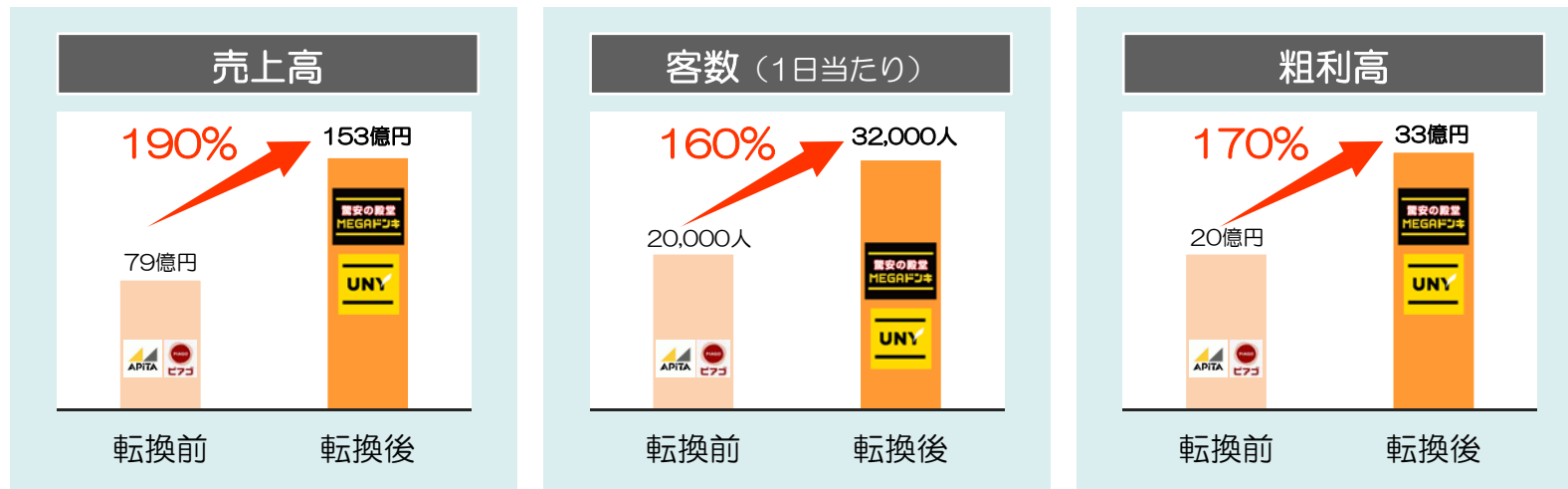
免税売上が急増してます。オールドンキで力合わせよう!

九州 9月×日 (金)

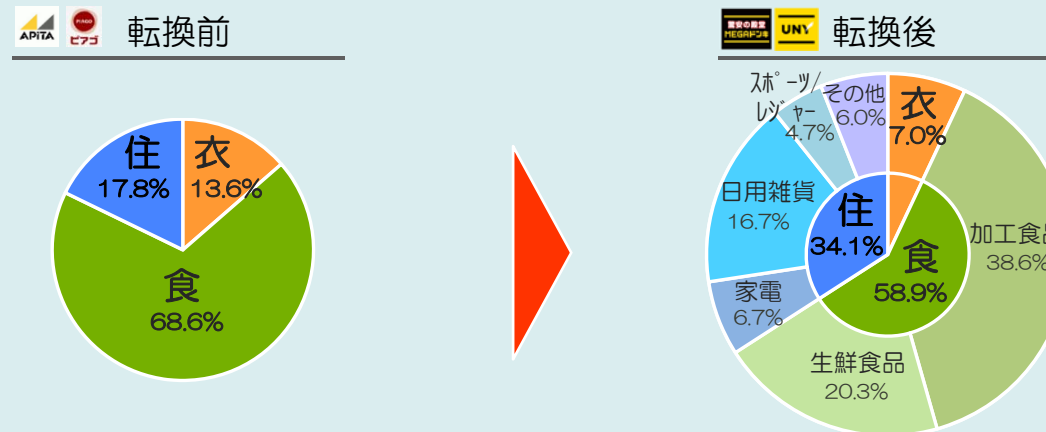
日本列島が自然災害に見舞われたけど、お客さまから「ドンキ従業員すごすぎ、ありがとう、ファンになった」って(^^)/

流通業界の常識が変わる！

ダブルネーム業態転換6店舗



売上構成比

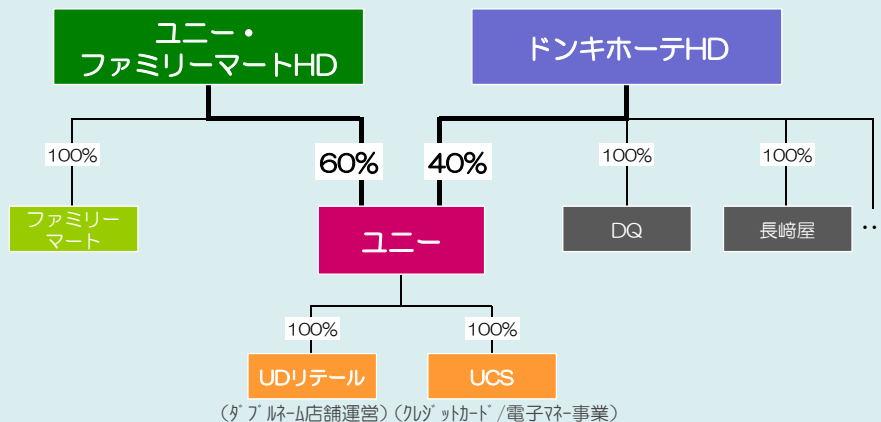


ダブルネーム業態転換6店舗 2018年3月～9月実績 (大口店、東海通店、座間店、星川店、豊田元町店、国府店)

顧客本位の大経済圏誕生

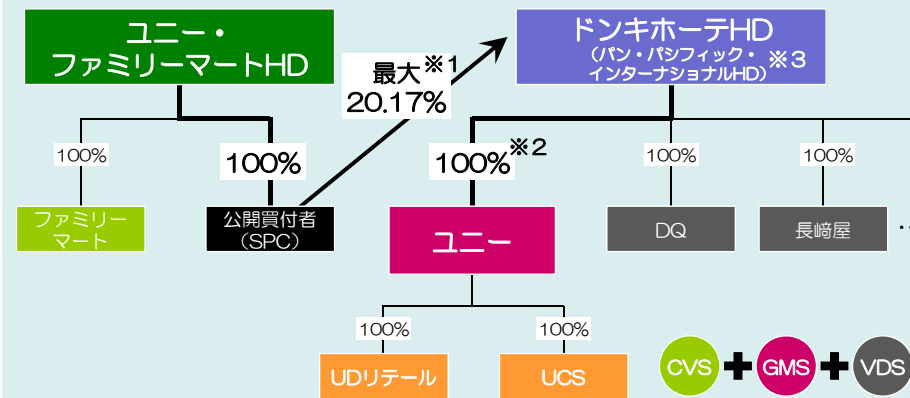
組織体制

現在



- ※1. ユニー・ファミリーマートHDがTOBで当社株式を最大20.17%取得予定 (2018年11月7日 TOB開始予定)
- ※2. ユニー株式60%を取得し、ユニーを完全子会社化する予定 (2019年1月株式取得予定)
- ※3. 商号を「パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス」に変更予定 (2019年2月1日変更予定)

変更後



小売売上高ランキング

2017年度		
順位	社名	売上高(百万円)
1	イオン	8,390,012
2	セブン&アイ・ホールディングス	6,037,815
3	ファーストリテイリング	2,130,060
4	ヤマダ電機	1,573,873
5	ユニー・ファミリーマートHD	1,275,300
6	三越伊勢丹ホールディングス	1,268,865
7	高島屋	949,572
8	ドンキホーテHD	941,508
9	エイチ・ツー・オー リテイリング	921,871
10	ビックカメラ	844,029

ドンキホーテHD
941,508百万円

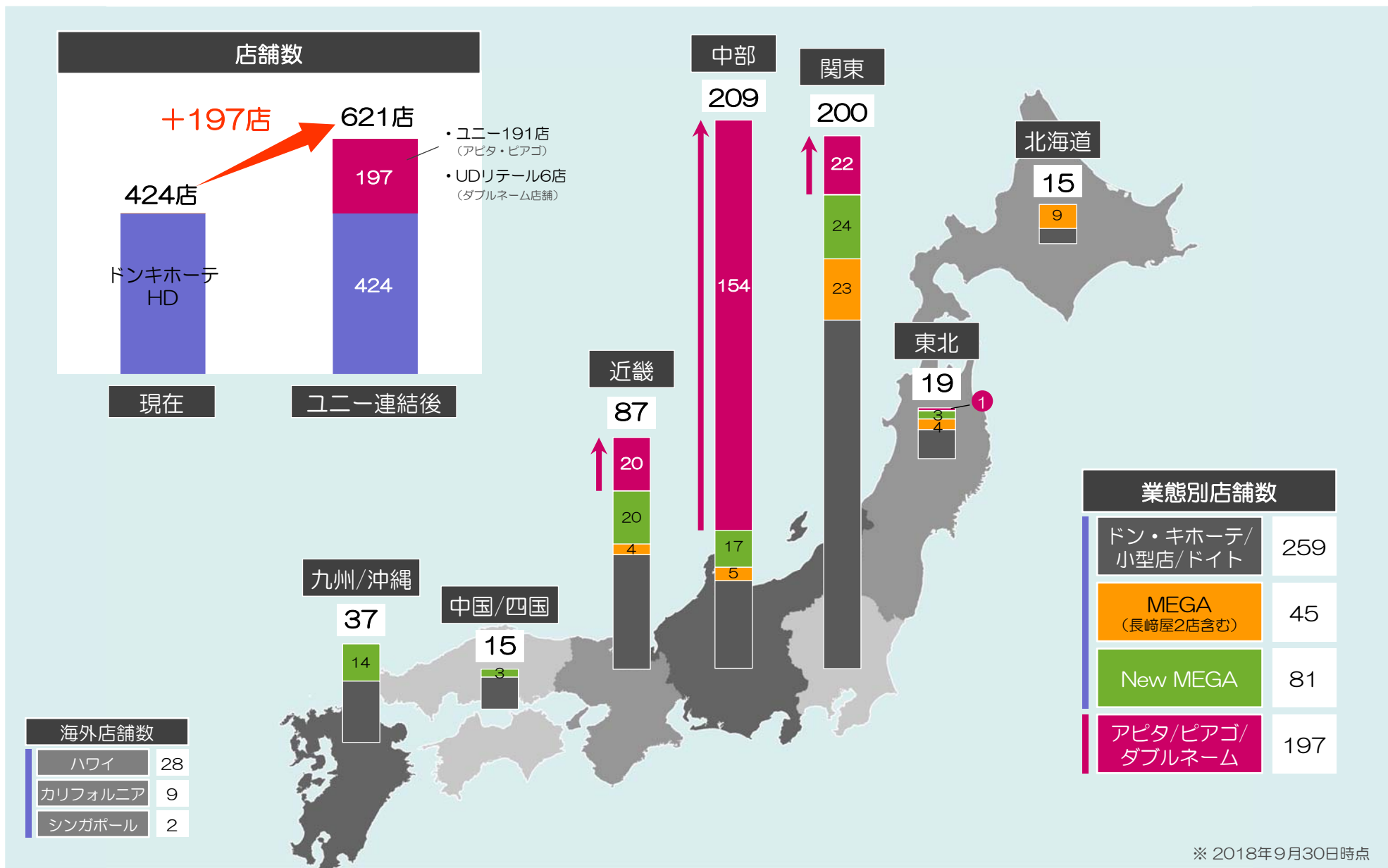
+

ユニー
670,649百万円
2018年2月期実績

ユニー完全子会社化後		
順位	社名	売上高(百万円)
1	イオン	8,390,012
2	セブン&アイ・ホールディングス	6,037,815
3	ファーストリテイリング	2,130,060
4	ドンキホーテHD	1,612,157
5	ヤマダ電機	1,573,873
6	三越伊勢丹ホールディングス	1,268,865
7	高島屋	949,572
8	エイチ・ツー・オー リテイリング	921,871
9	ビックカメラ	844,029
10	イズミ	729,857

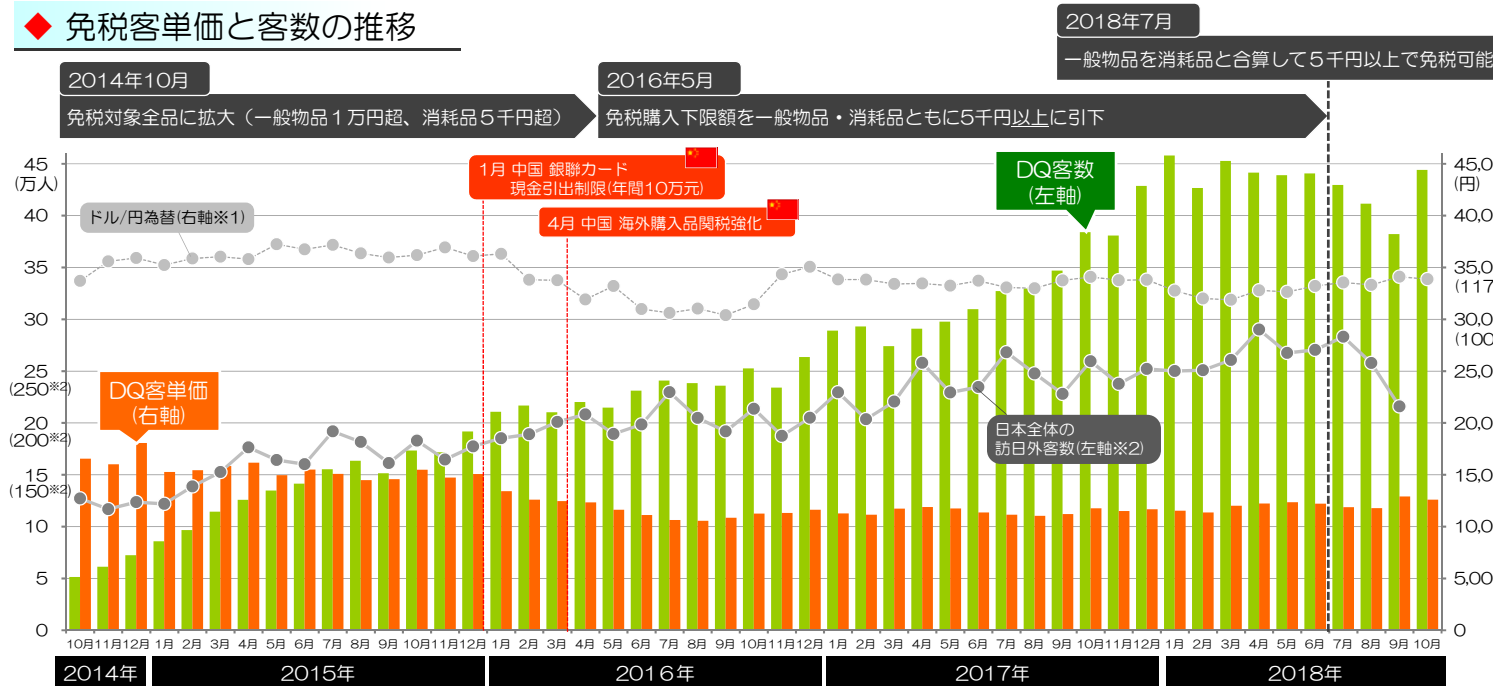
※ 日経MJ「第51回日本の小売業調査 (2018年6月27日)」に掲載のランキングに、当社は2018年6月期、ファーストリテイリング、ビックカメラは2018年8月期の業績指標を置き換えて作成したものです。

国内ネットワーク拡大

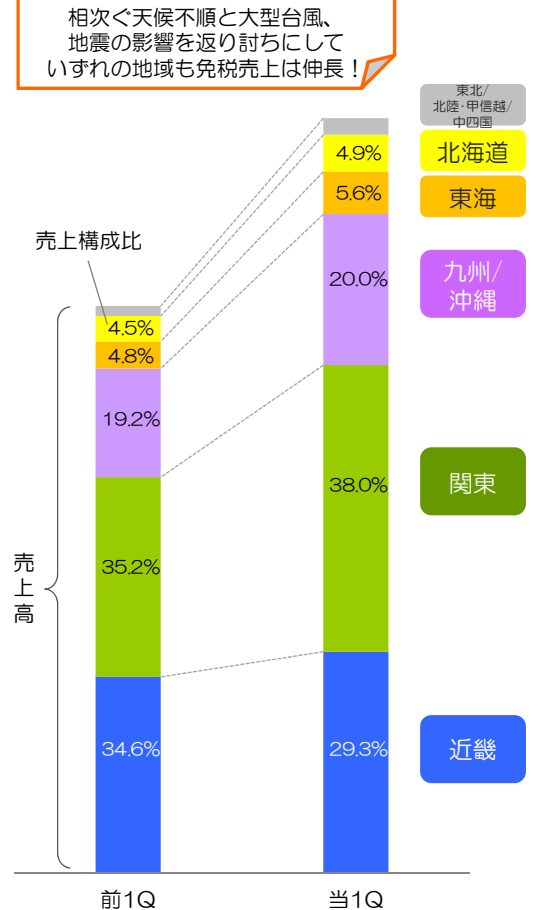


インバウンドの状況

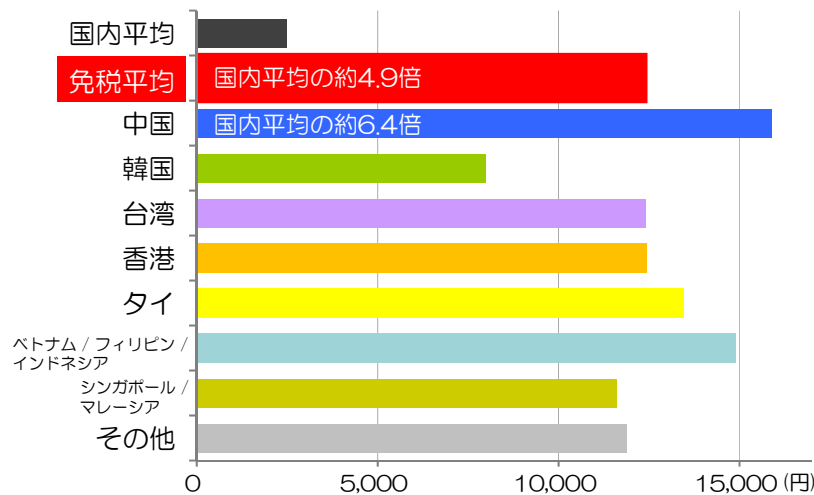
◆ 免税客単価と客数の推移



◆ 地域別免税売上高構成比



◆ 免税客単価



◆ 免税売上高構成比 上位10店※1

順位	店舗名	免税構成比
1	道頓堀店(大阪)	68.1%
2	道頓堀御堂筋店(大阪)	65.3%
3	国際通り店(沖縄)	55.2%
4	銀座本館(東京)	54.2%
5	福岡天神本店(福岡)	53.5%
6	なんば千日前店(大阪)	52.5%
7	中洲店(福岡)	52.2%
8	狸小路店(北海道)	46.7%
9	京都アバンティ店(京都)	44.9%
10	名古屋栄店(愛知)	42.9%
全店		8.7%

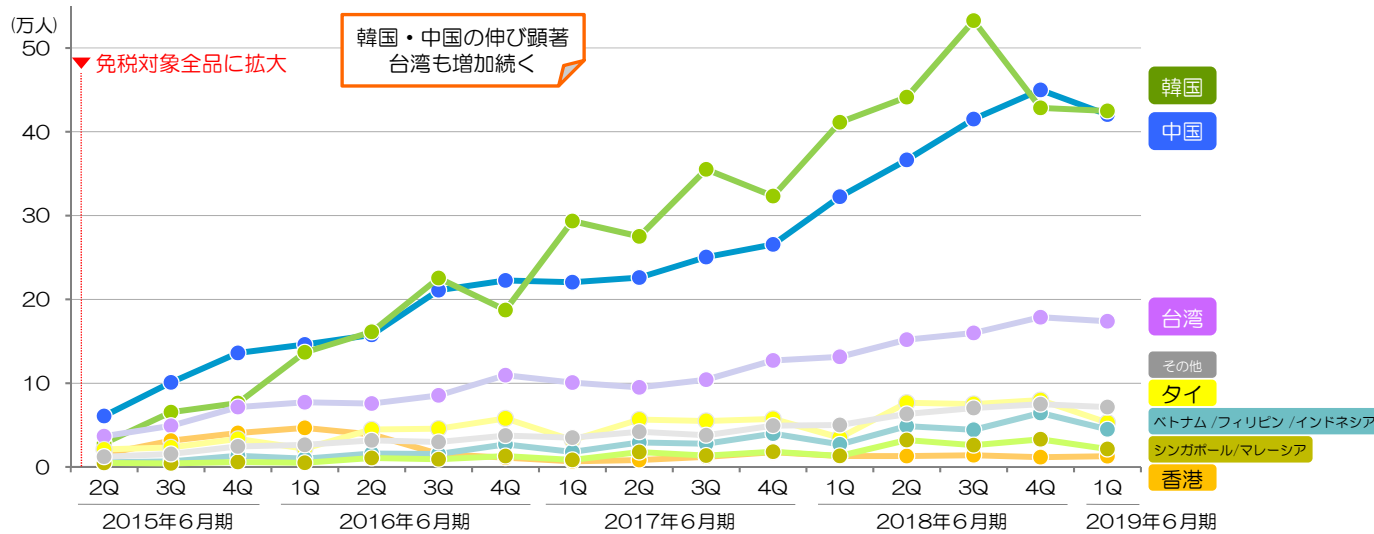
※1. ランキング上位店は、開店後6ヵ月経過店舗

対象データ：(株)ドン・キホーテ
(2018年7月1日～2018年9月30日)

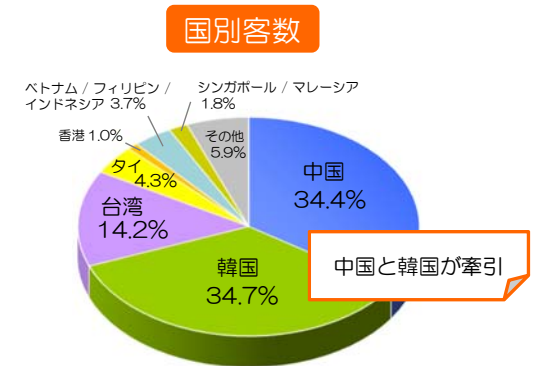


インバウンドの状況

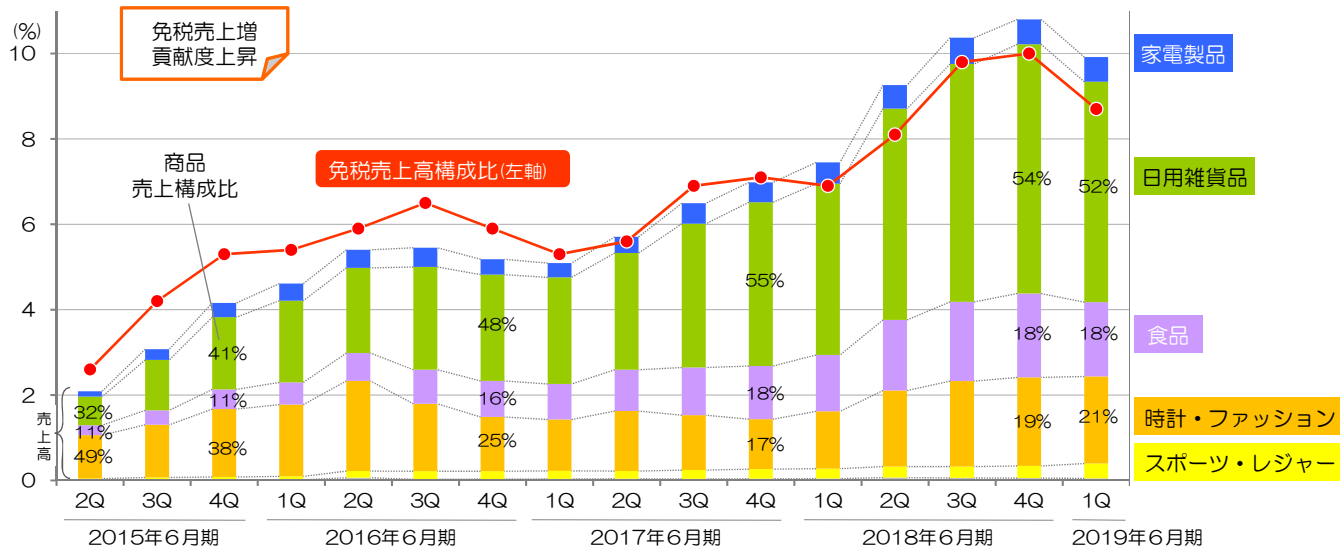
◆ 訪日外国人客数の推移



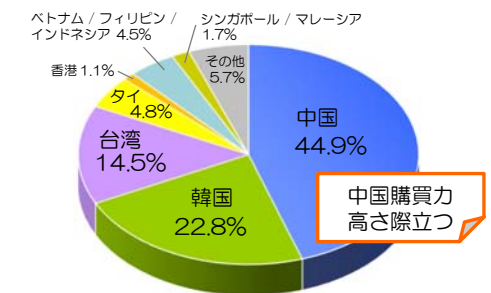
◆ 免税構成比



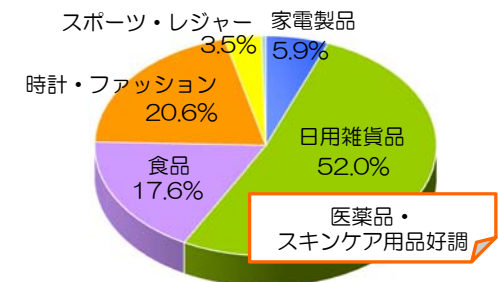
◆ 商品別免税売上高の推移



◆ 国別免税売上高



◆ 商品別免税売上高



— ビジョン2020 —

1. 売上高 1兆円
2. 店舗数 500店
3. ROE 15.0%

Sustainable Value Creators!

—2019年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. 営業方針：

- 商圏内競争を勝ち上がり、収益力拡大とブランド力の底上げを図る
- 素早く柔軟な体制強化のため、いっそう狭くて深い権限委譲を徹底
- インバウンド消費の需要獲得と創造
- スモールメリットとスケールメリットの両立

2. 商品戦略：

- 付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
- 儲ける力を持ち、スピード感のあるMD立案と実行
- 生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進

3. 店舗戦略：

- 設備投資額450億円
- 新規出店20店+ α 、ダブルネーム業態転換店の成長加速
- DQ既存店売上高予想：上半期=1.3%増、下半期=1.0%増、通期=1.1%増

4. 人事戦略（雇用改定5ヵ年計画の推進）：

- 多様性を認める企業文化を堅持
- 多様な雇用形態の創出
- 権限委譲とノンストレス型職場環境づくりの両立

5. 財務戦略：

- 資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
- 為替予想：1USD=107円、1SGD=80円
- 資金調達はデット調達を優先（エクイティ調達は予定無し）
- 年間配当金予想=33円00銭
（「累進的配当政策」を基本方針とし、16期連続増配予定！）

2Q連結業績予想

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	当2Q修正予想			当初予想		前2Q実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	512,000	100.0%	110.6%	503,000	100.0%	462,830	100.0%
売上総利益	135,000	26.4%	112.3%	131,800	26.2%	120,176	26.0%
販管費	105,000	20.5%	115.5%	102,300	20.3%	90,929	19.6%
営業利益	30,000	5.9%	102.6%	29,500	5.9%	29,247	6.3%
経常利益	35,000	6.8%	112.7%	32,400	6.4%	31,058	6.7%
当期純利益	21,500	4.2%	115.1%	19,500	3.9%	18,678	4.0%
1株当たり純利益	135.91円	—	115.1%	123.27円	—	118.08円	—
1株当たり配当金	5.00円	—	100.0%	5.00円	—	5.00円	—
減価償却費	7,600	1.5%	111.1%	7,600	1.5%	6,841	1.5%

当社は2019年1月にユニーを完全子会社化する予定であります。
 通期業績については、現時点で通期の合理的な業績予想の算定が困難であるため、未定としております。
 修正後の通期業績予想については、同年2月5日に改めて公表する予定としております。

上場子会社決算業績

ドンキホーテ HLDGS

日本アセット
マーケティング
(8922)

【PL概況】

	前2Q (17年4月1日～9月30日)		当2Q (18年4月1日～9月30日)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	9,329	100.0%	10,568	100.0%	113.3%
売上総利益	4,063	43.6%	4,552	43.1%	112.0%
販管費	396	4.2%	515	4.9%	130.1%
営業利益	3,667	39.3%	4,036	38.2%	110.1%
経常利益	3,522	37.8%	4,019	38.0%	114.1%
当期純利益	3,818	40.9%	2,736	25.9%	71.7%

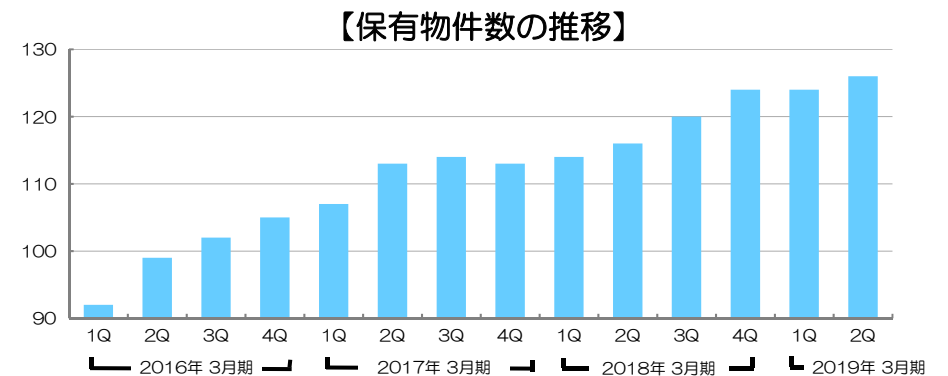
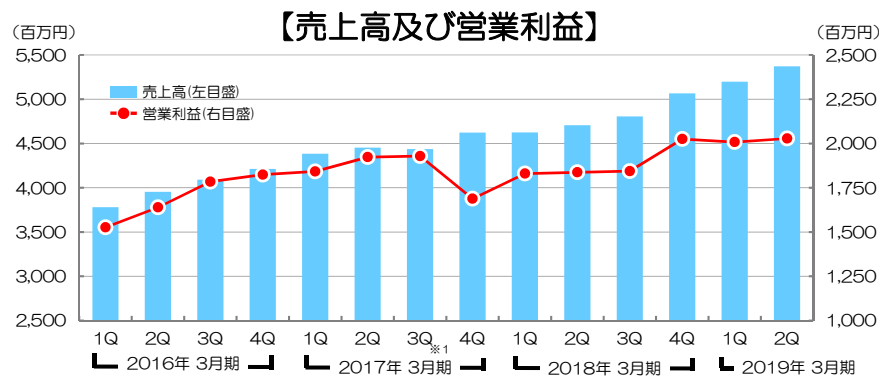
(単位：百万円)

【BS概況】

	前期末	当2Q末	増減額
流動資産 ^{※2}	30,710	25,129	▲5,581
固定資産 ^{※2}	148,296	161,586	13,290
資産合計	179,006	186,716	7,710
流動負債	15,619	17,211	1,592
固定負債	60,141	63,522	3,381
負債合計	75,760	80,733	4,973
純資産合計	103,246	105,982	2,736

(単位：百万円)

※2. 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正等の適用により、前期末において流動資産で計上していた繰延税金資産を固定資産へ組替えしております。



グループ総合力を発揮して収益力はますます上昇！

本日はありがとうございました

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第39期（2019年6月期）第2四半期決算発表（予定）

決算発表日：2019年2月5日（火）

説明会会場：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS

(2019年2月1日にパン・パシフィック・インターナショナルホールディングスに商号変更予定です)